

医学教育分野別評価
東海国立大学機構 名古屋大学医学部医学科
年次報告書
2023年度



MAKE NEW STANDARDS.



東海国立
大学機構



NAGOYA
UNIVERSITY

はじめに.....	3
1. 使命と学修成果.....	3
1.1 使命.....	3
1.2 大学の自律性および教育・研究の自由.....	4
1.3 学修成果.....	6
1.4 使命と成果策定への参画.....	7
2. 教育プログラム.....	9
2.1 教育プログラムの構成.....	9
2.2 科学的方法.....	11
2.3 基礎医学.....	13
2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学.....	14
2.5 臨床医学と技能.....	15
2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間.....	16
2.7 教育プログラム管理.....	17
2.8 臨床実践と医療制度の連携.....	18
3. 学生の評価.....	20
3.1 評価方法.....	20
3.2 評価と学修との関連.....	21
4. 学生.....	23
4.1 入学方針と入学選抜.....	23
4.2 学生の受け入れ.....	25
4.3 学生のカウンセリングと支援.....	26
4.4 学生の参加.....	27
5. 教員.....	28
5.1 募集と選抜方針.....	28
5.2 教員の活動と能力開発.....	29
6. 教育資源.....	32
6.1 施設・設備.....	32
6.2 臨床実習の資源.....	34
6.3 情報通信技術.....	35
6.4 医学研究と学識.....	37
6.5 教育専門家.....	39
6.6 教育の交流.....	41
7. 教育プログラム評価.....	43
7.1 教育プログラムのモニタと評価.....	43
7.2 教員と学生からのフィードバック.....	46
7.3 学生と卒業生の実績.....	48
7.4 教育の関係者の関与.....	49
8. 統轄および管理運営.....	51
8.1 統轄.....	51
8.2 教学のリーダーシップ.....	53
8.3 教育予算と資源配分.....	54
8.4 事務と運営.....	55
8.5 保健医療部門との交流.....	55
9. 継続的改良.....	56

医学教育分野別評価 東海国立大学機構 名古屋大学医学部医学科 年次報告書 2023年度

医学教育分野別評価の受審2021（令和3）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 32
本年次報告書における医学教育分野別基準日本版 Ver. 2. 34

はじめに

本学医学部医学科は、2021年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022年2月1日から7年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34を踏まえ、2023年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、2022年4月から本報告書提出年度である2023年3月までを対象としている。また、重要な改定があった項目を除き、医学教育分野別基準日本版 Ver. 2. 34の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 名古屋大学の学術憲章の中で述べられている「勇気ある知識人」は、関係者に周知されている。

改善のための助言

- ・ 使命の中で、卒後教育の準備や生涯学習への継続、さらに社会的責任についてより明確に定めるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は理念および3ポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）を定めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では、理念およびディプロマポリシーで定める学修成果の内容が達成されているか検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。また、2022年度からは卒業生を対象としたディプロマポリシー達成状況に関する調査を開始している。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2023年3月2日に医学部医学科教育委員会に対し理念および3ポリシーの定期的な見直しを実施することを提言している。

今後の計画

- カリキュラム評価(IR)委員会では、理念および3ポリシーにて定める本学の使命が達成されているかを検証するために、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- 学修成果達成状況に関する調査結果や国内外の社会の変化を考慮し、今後は医学

部医学科教育委員会にて定期的に理念および3ポリシーの見直しを実施していく。その際には、理念および3ポリシーの中で、卒業教育の準備や生涯学習への継続、さらに社会的責任についてより明確に定めることを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料8 2022年度学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価
資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施/2023年1月実施）
資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）
資料13 学部教育委員会への提案：理念・ディプロマポリシーの見直しの提案

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部の理念の全ての項目で医学研究について述べられている。

改善のための示唆

- ・ 医学部の理念の中で国際的健康、医療の観点について、さらに明確にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部では理念の4項目の中に、「医学研究および研究者の育成を目指すこと」、「世界の医療水準の向上と世界的に開かれた医学研究及び医療システムの構築を目指すこと」を定めている。

今後の計画

- カリキュラム評価(IR)委員会では、理念および3ポリシーにて定める本学の使命が達成されているかを検証するために、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- 学修成果達成状況に関する調査結果や国内外の社会の変化を考慮し、今後は医学部医学科教育委員会にて定期的に理念および3ポリシーの見直しを実施していく。その際には、医学部の理念の中での国際的健康、医療の観点について、さらに明確にすることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料13 医学部医学科教育委員会 提案 理念・ディプロマポリシーの見直しの提案

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部長のもとに医学部医学科教育委員会を組織して、自律性を持って教育施策を実施している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価（IR）委員会と合同で、2023年度新カリキュラムについてのアンケート（2022年3月）を学生・教員向けに実施し、学生や教員の意見を踏まえながら新カリキュラムの作成にあたっている。
- 2022年度からは新カリキュラム公開検討会を開催し、学生や教育関係者の意見を求めながら、令和4年度版医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容も踏まえたカリキュラム改変にあたっている。

今後の計画

- 引き続き、公開討論会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっていく。

改善状況を示す根拠資料

冊子資料① 2023年度名古屋大学医学部医学科教科案内（SYLLABUS）

資料1 2022年度医学部医学科学部教育委員会 議事録

資料3 2022年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会議事録

資料5 2022年度学生向け授業評価調査

資料6 2022年度学生向け学修状況調査（2023年3月実施）

資料7 2022年度教員向け教育状況調査（2023年3月実施）

資料48 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

資料49 2022年度試験のあり方WG 議事メモ

資料71 新カリキュラム（2023年度）に関するアンケート（2022年3月実施）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会が現行カリキュラムに関する検討を行っている。

改善のための示唆

- ・ 特定の科目、特に臨床実習での教育の向上のために最新の研究結果を利用することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

1.3 学修成果

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学修成果として、ディプロマポリシーを定めている。

改善のための助言

- ・ 学修成果を学生、教員をはじめ、全ての教育関係者に十分に周知すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部ではディプロマポリシーとして学修成果を定めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では、学修成果が適切に達成されているかを検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。上記自己評価は、ディプロマポリシーに関する学生への周知の機会ともなっている。
- また2021年度からは卒業生の進路先医療機関に対し、2022年度からはこれまでの全卒業生に対しディプロマポリシー達成状況に関する調査を実施しており、本学の教育関係者へのディプロマポリシー周知の機会ともなっている。
- また、カリキュラム評価(IR)委員会では2022年度(2023年3月)に教員向けに教育状況調査を実施し、その参考資料として上記の「学修成果(ディプロマポリシー)達成状況に関する自己評価」結果を使用し、教員への周知も努めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会と学生研究会と共同で、2022年度初めと2023年度初めに新入生アンケートを実施し、アンケート内にディプロマポリシー10項目を掲載し新入生への周知も努めている。同アンケートでは新入生の90%以上が入学前にディプロマポリシー10項目を知っていたと回答している。
- 従来の冊子体のシラバス・学生便覧への掲載へのほか、一般選抜学生募集要項にも掲載している。また、入学生募集冊子「医学への道」はディプロマポリシーのホームページ上のURLを掲載している。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2023年3月2日に医学部医学科教育委員会に対し3ポリシーの定期的な見直しを実施することを提言している。

今後の計画

- カリキュラム評価(IR)委員会では、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- 学修成果達成状況に関する調査結果や国内外の社会の変化を考慮し、今後は医学部医学科教育委員会にて定期的に理念および3ポリシーの見直しを実施していく。

改善状況を示す根拠資料

冊子資料① 2023年度名古屋大学医学部医学科教科研内(SYLLABUS)

冊子資料② 2023年度名古屋大学医学部医学科学生便覧

資料8 2022年度学修成果(ディプロマポリシー)達成状況に関する自己評価

資料7 2022年度教員向け教育状況調査(2023年3月実施)

資料11 2023年度新入生アンケート(2023年4月実施)

資料14 令和5年度一般選抜学生募集要項(ディプロマポリシー掲載ページ)

資料9 2022年度卒業生研修先調査(2022年6月実施/2023年1月実施)

資料10 2022年度卒業生調査(2022年10月実施)

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ ディプロマポリシーと卒後研修終了時の学修成果が関連づけられている。

改善のための示唆

- ・ 国際保健に関して学生がより理解できるように、学修成果に記述することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- カリキュラム評価(IR)委員会では、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- 学修成果達成状況に関する調査結果や国内外の社会の変化を考慮し、今後は医学部医学科教育委員会にて定期的に理念および3ポリシーの見直しを実施していく。その際には、ディプロマポリシーの中での国際保健の観点について、さらに明確にすることを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生が医学部医学科教育委員会の正式な委員になり、ディプロマポリシー策定の議論に参加している。

改善のための助言

- ・ 使命としての医学部の理念の策定には学生が参画しておらず、今後使命を改定する際には、学生が策定に参画すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では、2021度より毎年教員向けに教育状況調査を実施し、その参考資料として学生の学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価結果も示し、学修成果も含めたカリキュラムに関する意見を収集しており、その結果を学生も委員に含むカリキュラム評価(IR)委員会にて議論している。また調査結果およびカリキュラム評価（IR）委員会での審議事項は、同じく学生も委員に含む医学部医学科教育委員会にも提供され審議されている。
- また2022年度から実施している卒業生進路先医療機関を対象とした調査および卒業生を対象とした調査においても、学修成果の達成状況とともに、本学の教育や学修成果に関する意見収集を実施しており、その結果は医学部医学科教育委員会、医学科会議にも提供するとともに、教員向け教育状況調査の資料としている。

今後の計画

- 教員向けに教育状況調査は今後も定期的実施し、学修成果およびカリキュラムへの意見を求めていく。また卒業生調査や卒業生進路先調査を通じた幅広い教育関係者からの学修成果およびカリキュラムへの意見収集も引き続き実施していく。
- 学修成果達成状況に関する調査結果や国内外の社会の変化を考慮し、今後は医学部医学科教育委員会にて定期的に理念および3ポリシーの見直しを実施していく。その際には、3ポリシーだけでなく理念の策定にも学生が参画することを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料8 2022年度学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価
資料7 2022年度教員向け教育状況調査（2023年3月実施）
資料11 2023年度新入生アンケート（2023年4月実施）
資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施/2023年1月実施）
資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）
資料13 医学部医学科教育委員会 提案 理念・ディプロマポリシーの見直し

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域医療機関などからの意見を聴取している。

改善のための示唆

- ・ 患者や他の医療職など広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取して、使命と学修成果に反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2021年度より学生向け学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価、および教員に対し学修成果も含めたカリキュラムに関する意見を収集する教育状況調査を開始しており、その結果を、学外者、他の医療職も委員に含むカリキュラム評価(IR)委員会にて議論している。
- また2022年度から実施している卒業生進路先医療機関を対象とした調査および卒業生を対象とした調査においても、学修成果の達成状況とともに、本学の教育や学修成果に関する意見収集を実施しており、その結果は医学部医学科教育委員会、医学科会議にも提供するとともに、教員向け教育状況調査の資料としている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2023年3月2日に医学部医学科教育委員会に対し3ポリシーの定期的な見直しを実施することを提言している。

今後の計画

- カリキュラム評価(IR)委員会では、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- また、それらの結果や、国内外の社会の変化を考慮し、今後は医学部医学科教育委員会にて定期的に理念および3ポリシーの見直しを実施していく。その際には、患者や他の医療職からの意見の聴取を考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料3 2022年度カリキュラム評価（IR）委員会議事メモ
- 資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施/2023年1月実施）
- 資料10 2022年度卒業生調査（2023年10月実施予定）
- 資料13 医学部医学科教育委員会 理念・ディプロマポリシーの見直しの提案

2. 教育プログラム

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究を重視するという理念のもと、MD・PhDコース、博士課程プレプログラム、学士編入学者用のカリキュラムが定められていることは評価できる。
- ・ 学部学生が大学院の講義に参加することができる点は評価できる。
- ・ 学修意欲を刺激するために、医学入門や基礎医学セミナーなどが開講されている。

改善のための助言

- ・ 学修成果の達成度を段階的に測定できるように、カリキュラムを設定すべきである。
- ・ より多くの科目で、学生が自分の学修過程に責任を持てるように、学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学修方法を採用すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機構の下に設置されている岐阜大学医学部とともに2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、2022年度も引き続き学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、具体的な連携を検討している。「医学専門科目の連携について」では、両大学の同様の科目を担当する教員同士が、それぞれの講義・実習内容等を共有し、意見交換する場を設けている。
- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価（IR）委員会と合同で、2023年度新カリキュラムについてのアンケート（2022年3月）を学生・教員向けに実施し、学生や教員の意見を踏まえながら新カリキュラムの作成にあたっている。2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開討論会（2022年度5月～7月、2023年6月～7月に実施）など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保している。
- 学修成果の達成度を段階的に測定できるように、学生に対し年度末に「ディプロマポリシー達成状況に関する自己評価」を実施している
- 実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022年度からは1年生を対象として

2022年6月「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業が実施された。2023年度も同様に医学入門で授業連携を実施予定である。

- 総合医学教育センターが中心となって、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFaculty Development (FD)を2021年度より開始した。第3回より 学生も参加し、教員・学生がグループワークを交えて活発な討議・質問が行われている。
 - ・ 第1回(2022年1月実施)では、「(コロナ禍における今後の教育のあり方を見据えた)来年度の講義・実習について」「岐阜大学との教育連携について」「IR活動について」「ICT-NUCTの今後・機構ID」「国の動きー共用試験の公的化・コアカリ改訂」をテーマとして開催した。
 - ・ 第2回(2022年7月実施)では、「反転授業」「ハラスメント」をテーマとして開催した。ハラスメントに関しては名古屋大学ハラスメント相談センターと連携し、学生向けに相談窓口の案内を周知するとともに、2022年6月に教員向けの研修を実施した。反転授業に関しては、外部講師による講演を行い、グループワークを交えて活発な討議・質問が行われた。
 - ・ 第3回(2022年9月実施)では、「講義の出席について」をテーマとして開催した。実態の説明や講義の出欠についてのセミナー、初めて学生も参加し活発な討議が行われた。
 - ・ 第4回(2023年2月実施)では「試験のあり方」をテーマとして開催した。外部講師による講演を行い 学生・教員との間で積極的な意見交換が行われた。

今後の計画

- 実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2023年度以降も授業連携を実施予定である。
- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開討論会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、2023年度以降も新カリキュラム策定に関する公開討論会を実施予定している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料17 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD (2022年1月実施)
- 資料18 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD (2022年7月実施)
- 資料19 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD (2022年9月実施)
- 資料20 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD (2023年2月実施)
- 資料21 2022年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告
- 資料71 2023年度以降の新カリキュラム策定に関する公開討論会 (2022年5月～7月)
- 資料8 2022年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2023年2月実施)
- 資料22 岐阜大学との授業連携 (2022年6月&2023年6月)

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 生涯学習につながるカリキュラムをさらに充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- キャリア教育など、生涯教育につながるカリキュラムを拡充することを目指し、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的に開催している。

第1回：2022年11月

女性医師としてのキャリアパス、米国での救急医の経験について

第2回：2023年2月

女性研究医としてのキャリアパス、在宅診療医としてのキャリアパスについて

今後の計画

- 今後も引き続き、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生（女性教員を含む）を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的に開催していく。

改善状況を示す根拠資料

資料31 名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク
学生・若手医師向けキャリアセミナー（第1回・第2回）

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究を重視するという理念のもと、基礎セミナー、基礎医学セミナーといった科学的手法の原理、医学研究の手法を学ぶ科目が設定されている。
- ・ 冊子資料「EBM学習パッケージ」が作成され、それを用いてEBMの基本的な教育が行われている。

改善のための助言

- ・ 臨床実習の現場でEBMの教育を確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部では2021年4月に臨床研究教育学講座を設け、臨床研究人材の育成と各種臨床研究の支援を目指している。2022年度は学部学生への「臨床研究教育」に関し、医学部1年生（メディカルサイエンスカフェ）、4年生（選択特別講義「臨床試験」）、5年生（臨床実習I）、6年生（臨床実習II）を担当し、学生への臨床研究に関するリテラシー向上のための教育にもあたっている。

- EBMを臨床実習の現場で活用できるようにするため、PBLにおいて臨床的な状況でのEBMの活用を学習するようにした。
- EBM教育としてPBLチュートリアル実施時のオリエンテーションにて、Up-to-dateを用いた文献検索に関する説明会を開始している。またPBLチュートリアルでの適切な文献引用に関する資料を作成し学生に配布している。
- PBLについてEBMの5つのステップ(1. 疑問の定式化・2. 情報収集・3. 批判的吟味・4. 患者への適用・5. 振り返り)について、1, 3, 4, 5を支援する質問をチューター用シナリオに追加し、チューターから学生にEBMの学習を促せるようにした。
PBLのステップ2の質についてチューターが評価票で評価するようにした。
- 2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を実施し、その中で学生がどのように文献を調べ、それに対してどのようにフィードバックされているかを調査した。
- カリキュラム評価（IR）委員会で、学生への臨床実習アンケートも開始し、広く学生の意見を収集し全診療科にフィードバックしている。

今後の計画

- 学生評価WGの実施した臨床実習の全診療科へのインタビュー調査結果も踏まえて、臨床実習の現場でのEBM教育を拡充していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料29 臨床研究教育学講座について
- 資料25 2023年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（学生用）
- 資料26 2023年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（教員用）
- 資料27 2023年度PBLチュートリアルオンライン評価に関する資料料（教員用）
- 資料28 2023年度PBLチュートリアル適切な文献引用について
- 資料23 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）
- 資料24 2022年度臨床実習（学生向け）アンケート

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎医学セミナーにおいて、約6か月間の研究室配属が行われていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

2.3 基礎医学

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎医学分野の要素が広くカリキュラムに取り入れられている。

改善のための助言

- ・ 臨床医学を修得し応用するのに必要となる基本的な科学的知見、概念と手法を理解するのに役立つという観点から、カリキュラム全体の中での基礎医学教育のあり方を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2023年度からは基礎医学教育の大幅な再編を含む新カリキュラムへの変更を予定している。それに向けて「学生・教員を対象とした新カリキュラム2023年度に関する調査」を実施し、教育プログラムの中での基礎医学教育のあり方に際し、教員や学生から広く意見を求めた。

今後の計画

- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開討論会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、進めていくことを予定している。2023年度も6～7月に新カリキュラム公開検討会を予定している。

改善状況を示す根拠資料

資料71 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医療におけるAIの教育が行われている。

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となると予測されることについて、カリキュラム全体として明確にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 2023年度からの新カリキュラム作成にあたっては、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となると予測される事項も考慮し、データサイエンスの充実化などを図っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 老年科において、高齢者医療や福祉に関して社会医学を含む教育が行われている。

改善のための助言

- ・ 行動科学、医療倫理学、医療法学の体系的なカリキュラムを定め、確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2023年度以降の専門教育を対象とした新カリキュラム作成にあたっては、行動科学や社会医学の充実化を図っている。
2022年度は、医学部3年生に対して、仮想の訪問診療場面における多職種および患者・家族の視座を同時に映像記録を行い、そこから各職種や患者・家族と医学生の視点の違いを学ぶ授業を試験的に実施した。

今後の計画

- 2023年度から行動科学・社会科学の科目を新設し、新カリキュラムにおいて、行動科学、医療倫理学、医療法学の体系的なカリキュラムを実際実施していく。
- 2023年度は、医療人類学と特定の診療科のトピックを結びつけたオンデマンド教材を複数作成予定である。バーチャル教育環境については、特定の診療場面における医学生・医師・医療職・患者・家族の視点をリアルタイムで記録し、そこから視座の違いを学ぶ授業を、実際の医療機関のセッティングで試験的に実施する予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料38 令和4年度ポストコロナ事業実施報告書

資料68 2023年度シラバス 行動科学・社会医学の時間割と授業説明のページ

資料69 2023年度行動科学・社会科学 オリエンテーション資料

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医療制度の変化に関する教育が行われている。

改善のための示唆

- ・ 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関して、カリキュラムを調整および修正する体制を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学も含めたカリキュラムに関しては、カリキュラム評価(IR)委員会による継続的な授業評価および学生・教員を対象としたカリキュラムアンケートを実施し、評価していくとともに学習者や教員の需

要を考慮した調整を行っていく。また、モデル・コア・カリキュラム改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「臨床実習Ⅱ」の教育期間を2020年度から延長し、診療参加型臨床実習の期間を増やしている。

改善のための助言

- ・ 臨床実習に関して、重要な診療科で学修するための十分な時間を全員に確保すべきである。
- ・ 学生が実習において、チームの一員としてより積極的に診療に参加できる実習を充実させるべきである。
- ・ 総括的評価に加えて、形成的評価を充実し、診療参加型臨床実習の質を向上させるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2021年度から2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を以下の内容で実施した。
 - ・ コロナをきっかけとした変化も含めて、現在臨床実習で何が行われているかを知る
 - ・ 形成的評価も含めて臨床実習で行われている評価を知る
 - ・ 臨床実習現場での評価におけるICTの活用可能性について相談する
 - ・ 参加型への移行可能性について相談する
 - ・ ディプロマポリシーとの関連付けについて相談する
- また、メディカルXRセンターでは、シミュレーターを用いた教育の拡充を図っている。（VR手術室、解剖のVRシミュレーター、直腸診シミュレーターなど）

臨床実習における診療参加の例（外科ユニット）

臨床実習Ⅰ・・・学生は2週間ごと1つの臓器グループに配置され、そのグループの手術見学と手術に参加した患者さんの周術期の回診・カルテ記載を行っている（全部で4週間-2グループ）。

臨床実習Ⅱ・・・学生は4週間の間1つの臓器グループに所属し、チームの一員として手術・検査・回診などに参加する。臨床実習Ⅱでは1よりもグループの1人としての活躍を求め、実際に手術や処置の助手として見学にとどまらない参加をする。

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を踏まえて、形成的評価の現状及び診療参加をするために障壁となっている要因を分析し、診療参加型臨床実習の実現に向けた支援を今後検討していく。
- ディプロマポリシーに関連づけられ、形成的評価を統合しICTを活用した評価システムを構築し今後運用することを目指していく。

改善状況を示す根拠資料

資料23 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）

資料24 2022年度臨床実習（学生向け）アンケート

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 1年次の医学入門の中で、看護実習、介護実習、医師シャドーイング、医療現場体験実習などが行われている。

改善のための示唆

- ・ 1年次だけでなく、全ての学生が2年次から臨床実習開始まで、徐々に患者診療へ参画する機会を確実に確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 臨床医学・臨床実習も含めたカリキュラムに関しては、カリキュラム評価(IR)委員会による継続的な授業評価および学生・教員を対象としたカリキュラムアンケートを実施し、評価していくとともに学習者や教員の需要を考慮した調整を行っていく。また、モデル・コア・カリキュラム改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。
- 1年次だけでなく、2年次から臨床実習開始までの期間においても患者診療へ参画する機会を今後検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育範囲、教育内容、実施日程などがシラバスに明示されている。

改善のための助言

- ・ 6年間の医学教育プログラムにおいて、全学教育科目、基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分で構成すべきである。
- ・ 6年間を通じて、学修成果を確実に達成できるように、教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度の1年生のカリキュラムから、全学教育科目、基礎医学、行動科学、社会医学等の大幅な再編をした。
- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、全学生および教員が参加可能な公開討論会を定期的を開催し、学生や教員の意見を積極的に取り入れながらカリキュラムの改善を図っている。

今後の計画

- 新カリキュラムへの変更の際には、学生や教員から広く意見を収集しニーズを踏まえるとともに、6年間を通じた学修成果の確実な達成を考慮した期間や実施順序等を検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料68 2023年度シラバス 行動科学・社会医学の時間割と授業説明

資料69 2023年度行動科学・社会科学 新入生オリエンテーション資料

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 4年次に臨床医学の水平的統合を目指した9講義から成る「臓器別臨床講義」が設定されている。

改善のための示唆

- ・ カリキュラムの水平的統合、垂直的統合を確実に実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 新カリキュラムへの変更の際には、学生や教員から広く意見を収集しニーズを踏まえるとともに、カリキュラムの水平的統合、垂直的統合を図ることも検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ、医学部医学科教育委員会が設置され、構成委員に教員と学生の代表が含まれている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員を別に専任するなど、両者の独立性を高めている。
- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価(IR)委員会からの提言を受けて実際の改善に取り組んでおり、実際の教育プログラム改善活動を通じて両者の役割分担が明確になってきている。

今後の計画

- 引き続き、実質的な活動を通じて、医学部医学科教育委員会の担う役割を明確にしていく。

改善状況を示す根拠資料

資料2 2023年度医学部医学科学部教育委員会 名簿

資料3 2023年度医学部カリキュラム評価(IR)委員会名簿

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教育カリキュラムの改善に関して、カリキュラム評価(IR)委員会などとの連携体制が組織的に示されている。

改善のための示唆

- ・ 医学部医学科教育委員会を中心とした関連組織が、有機的かつ持続的に連携して活動することが望まれる。
- ・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任を持つ委員会に、卒業生、臨床実習に関わる他の医療専門職、一般市民などの幅広い教育関係者を含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 総合医学教育センターが卒後臨床研修・キャリア支援センターと連携して卒前教育と卒後の教育・臨床実践を支援している。
- ・ 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」が卒前教育と卒後の教育・臨床実践に関与し、組織的に活動している。

改善のための助言

- ・ 保健医療上の問題点を特定し、それに対して必要な学修成果を明らかにして、適切に連携を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2022年度以降、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的実施していくことを決定した。
卒業生進路先調査は、2022年6月と2023年1月に実施、卒業生調査は10月に初めて実施した。

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生や卒業生の働く環境からも本学のカリキュラムや学修環境に関する意見、さらには地域や社会の抱える保健医療上も問題に関する情報を収集し、教育プログラムを適切に改良していく。
- モデル・コア・カリキュラム改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月/2023年1月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」を通じて、卒業生が将来働く環境からの情報を得ている。

改善のための示唆

- ・ 基礎研究、公衆衛生、産業保健など、卒業後に選択されることが少ない分野からも、さらに情報収集を行うことが望まれる。
- ・ 一般市民など地域や社会の意見を、さらに取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2022年度以降、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的実施していくことを決定した。
卒業生進路先調査は、2022年6月と2023年1月に実施、卒業生調査は10月に初めて実施した。
- キャリア教育など、生涯教育につながるカリキュラムを拡充することを目指し、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的開催している。

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生や卒業生の働く環境からも本学のカリキュラムや学修環境に関する意見を得て、教育プログラムを適切に改良していく。卒業生を対象としたアンケートでは、臨床だけでなく研究・公衆衛生・産業保健などの分野に進んだ卒業生も対象とし意見収集を行う。
- モデル・コア・カリキュラム改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月/2023年1月実施）
- 資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）
- 資料31 名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク
学生・若手医師向けキャリアセミナー（第1回・第2回）

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 過去の試験問題等を収集し、医学教育専門家による分析が開始されている。

改善のための助言

- ・ より多くの科目で、知識だけでなく、技能および態度について評価方法や基準を明示し、確実に実施すべきである。
- ・ 臨床実習中の疾患や病態の経験についての評価に加え、MiniCEXなどWorkplace-based Assessmentによる態度・技能評価も確実に実施すべきである。
- ・ 教職員の関係者が履修する科目の評価に際しては、利益相反に十分な配慮を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度は、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を以下の内容で実施した。
 - ・ コロナをきっかけとした変化も含めて、現在臨床実習で何が行われているかを知る
 - ・ 形成的評価も、技能・態度面の評価含めて臨床実習で行われている評価を知る
 - ・ 臨床実習現場での評価におけるICTの活用可能性について相談する
 - ・ 診療参加型への移行可能性について相談する
 - ・ ディプロマポリシーとの関連付けについて相談する
- 技能評価に関しては、臨床実習後OSCEの一部で、大学独自課題を実施し評価した。

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を踏まえて、技能・態度も含めた新評価を実施するための準備を開始していく。その際にはMiniCEXなどWorkplace-based Assessmentによる評価も取り入れることを検討していく。
- 学士試験評価小委員会を設置し、各々の学士試験についての妥当性を検討していく。
- 試験の実施方法などに関する教員用の申し合わせ事項等を整備し周知することを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料23 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）

資料24 2022年度臨床実習（学生向け）アンケート

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「アンプロフェッショナルな行動・態度の評価」を始めている。

改善のための示唆

- ・ 全ての評価において信頼性、妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・ 計画している電子ポートフォリオによる学びの可視化や臨床実習におけるMiniCEX、360度評価などの活用を推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を踏まえて、信頼性、妥当性も考慮した技能・態度も含めた新評価を実施するための準備を開始していく。
- カリキュラム評価(IR)委員会では試験成績など教学データの分析を予定している。その中では、各科目の成績評価の妥当性・信頼性についての検証も実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 目標とする学修成果と教育方法に整合した評価をさらに進めるべきである。
- ・ 目標とする学修成果を学生が達成していることを保証する評価を確立すべきである。
- ・ 形成的評価を積極的に取り入れ、学生の学修を促進するとともに、学修の進捗を判定できる評価を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では、ディプロマポリシーで定める学修成果の内容が達成されているか検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。今後も各学年に対し各年度末に継続的に実施していく。
- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機

構名古屋大学医学部FD」と称する Faculty Development (FD)を2021年度より開始した。第3回より学生も参加し、教員・学生がグループワークを交えて活発な討議・質問が行われている

第4回(2023年2月実施)は「試験のあり方」をテーマとして開催した。

外部講師による講演を行い、学生・教員との間で積極的な意見交換が行われた。

- 2022年度からは試験問題の公開を行い、試験の合否についてはLMS(TACT)を用いて結果を開示している。
- 2022年度は、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を以下の内容で実施した。
 - ・コロナをきっかけとした変化も含めて、現在臨床実習で何が行われているかを知る
 - ・形成的評価も含めて臨床実習で行われている評価を知る
 - ・臨床実習現場での評価におけるICTの活用可能性について相談する
 - ・参加型への移行可能性について相談する
 - ・ディプロマポリシーとの関連付けについて相談する

形成的評価の例：

臨床実習(外科ユニット)：評価において形成的評価を目的とした評価表(ルーブリック)を使用し、活用している。最終日には糸結びのテストをして直接現場でフィードバックしている。

臨床医学「消化器」の「膵臓外科」では学生が小テストを何度でも受けられるようにしている。またアウトカム基盤型学修／インストラクショナル・デザインを意図し、学生は小テストを合格すれば授業に参加しなくても可としている。

直腸診実習では学生同士が評価表を付けあうピア評価を使って形成的評価を促している。

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を踏まえて、形成的評価の現状を分析し、形成的評価の充実に向けた支援を今後検討していく。
- ディプロマポリシーに関連づけられ、形成的評価を統合しICTを活用した評価システムを構築し今後運用することを目指していく。
- カリキュラム評価(IR)委員会では試験成績など教学データの分析を予定している。その中では、各科目の学修成果を踏まえて、評価の妥当性についての検証も実施していく。カリキュラム評価(IR)委員会の下部組織として学士試験評価小委員会を立ち上げ、試験に関する見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料23 臨床実習に関するインタビュー調査(医学部附属病院 全診療科)

資料24 2022年度臨床実習(学生向け)アンケート

資料8 2022年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2023年2月実施)

資料17 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD(2022年1月実施)

資料18 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD(2022年7月実施)

資料19 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD(2022年9月実施)

資料20 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD(2023年2月実施)

資料77 履修認定および試験結果の回収方法等について(2023年4月25日通知)

資料15 入試枠ごとの実績に関する分析（カリキュラム評価(IR)委員会レポート）

資料16 教学 IRデータに関する取扱いについて

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生と教員が協議し、試験日程が過密にならないように配慮している。

改善のための示唆

- ・ 評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行い、全ての学生の学修を確実にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 学生からあがった要望をもとに、2022年度より医学部医学科教育委員会では委員会内の組織として「試験のあり方検討WG」を立ち上げ、学生参加のもと、試験日程に関するルール作りにあたっている。試験日程の決定ルールに関しても学生と教員のニーズを踏まえて再検討し、試験日程をあらかじめシラバスに記載した。
- 2022年度からは試験問題の公開を行い、試験の可否については LMS（TACT）を用いて結果を開示している。

今後の計画

- 2024年度以降の医学科カリキュラムに関しても、公開検討会で学生と教員のニーズを踏まえて再検討することを予定している。
- カリキュラム評価(IR)委員会の下部組織として2023年度に学士試験評価小委員会を立ち上げ、試験に関しての見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料48 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

資料49 試験のあり方WG 議事メモ資料

資料70 履修認定および試験結果の回収方法等について（2023年4月25日通知）

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部の理念、アドミッションポリシーに基づいて、一般入試（前期日程、地域枠としての後期日程）、研究者志向のある学生を選抜する推薦入試と学士編入学入試など、多様な選抜方法が実施されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 3年次編入から2年次編入へ
令和3年（2021年）度までは、第3年次編入学学生の受入れを実施していたが、令和4年（2022年）度より、第2年次編入学学生の受入れを開始した。
同時に、編入学試験の募集定員を見直し、令和3年度までは第3年次編入学生5名、令和4年（2022年）度以降は第2年次編入学生4名となった。
- 地域枠選抜入試を後期日程から前期日程へ
令和5年（2023年）度入試より、地域枠5名の選抜入試を後期日程から前期日程へ変更した。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、入試科目とその後の成績との関係を調査した。

今後の計画

- 今後カリキュラム評価（IR）委員会では、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的実施していく。また、カリキュラム評価（IR）委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析も開始した。上記の卒業生調査や教学データ分析では地域枠・推薦入試・編入学など入試枠ごとの分析も実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料46 2023年度第2年次学士編入学学生募集要項
- 資料47 2023年（令和5年）度推薦入試医学部の出願資格・要件および選抜方法
- 資料50 2023年（令和5年）度以降の医学部医学科一般選抜（前期日程・後期日程）入試の変更
- 資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月&2023年1月実施）
- 資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）
- 資料15 入試枠ごとの実績に関する分析（カリキュラム評価(IR)委員会レポート）
- 資料16 教学 IRデータに関する取扱いについて

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 開示請求にとどまらず、入学決定の疑義申し立て制度を採用することが期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 今後、カリキュラム評価（IR）委員会では、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的実施していく。また、カリキュラム評価（IR）委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析も予定している。上記の卒業生調査や教学データ分析では地域枠・推薦入試など入試枠ごとの分析も実施を開始している。

- 入学試験情報の開示請求を受け付けており、入学決定の疑義申し立てが可能であるが、制度の利用実績も踏まえ、制度に有り方について引き続き検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 想定するキャリアプランにあわせて複数の教育プログラムを準備したうえで、異なった選抜様式を採用している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎医学研究者の減少に対応した基礎医学研究者の養成プログラムを準備し、受け入れ定員を設けている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全学において学生支援センター（現学生支援本部）を設置し、保健管理室、障害学生支援室（現アビリティ支援センター）と連携することで、学生のカウンセリング、支援体制を構築している。

改善のための助言

- ・ 学生を支援するためのプログラムをさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2021年度からは各年度末に学生向け学修状況調査を実施し、2022年度も「教員との交流」「友人関係」「自分の社会生活への不安」についての意見を収集した。
- またその他の科目別の授業評価調査なども含め学生からの注視したほうがよいコメントがあった場合は、関係組織と連携し対応している。
- 実際に2021年度の授業評価や学修状況調査では、匿名ではあったがハラスメントが疑われる行為の記載があったため、名古屋大学ハラスメント相談センターと連携し、学生向けに相談窓口の案内を周知した。2022年6月に医学部教授会でも共有し、第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FDを開催し教員向けハラスメント防止研修を実施した。また、2023年3月にハラスメント研修の英語版の資料も各講座に配布した。

今後の計画

- 今後も学生に対し、支援プログラム、保健管理室、アビリティ支援センター、ハラスメント相談センターなどの情報を周知し、適切なカウンセリングと支援を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料6 2022年度学生向け学修状況調査（2023年2月実施）

資料34 医学部におけるハラスメント防止研修eラーニング（2022年6月実施）

資料35 名古屋大学ハラスメント相談センターハラスメント講義（2022年7月実施）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」が、キャリア支援の一部を担っている。

改善のための示唆

- ・ 指導教員によるメンター制度を充実し、教育進度に基づいて学修上のカウンセリングを提供し、実質化することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 指導教員との面談記録の作成を2020年度より決定している。
- 取得単位が不足するなど教育上の課題を抱える学生に対しては、個別の面談も実施している。

今後の計画

- 指導教員との定期面談や教育上の課題を抱えた場合の面談時において、記録に基づいた継続的な支援の実績を今後積み重ねていく。

改善状況を示す根拠資料

資料35 2022年度学生定期面談の記録に関する資料

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に学生委員が規定され、実際に活動を行っている。

改善のための助言

- ・ 使命を策定する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。
- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に参加する学生委員が重複しており、両委員会の独立性を担保するために委員の構成を十分に検討すべきである。
- ・ 学生生活委員会に学生が実質的に参加すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員を別に選任するなど、両者の独立性を高めている。
- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価（IR）委員会と合同で、2023年度新カリキュラムについてのアンケート（2022年3月）を学生・教員向けに実施し、学生や教員の意見を踏まえながら新カリキュラムの作成にあたっている。
- 学部教育委員会の下部組織である、試験のあり方WGには、毎回学生が参加し、積極的に発言している。
- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFaculty Development（FD）を2021年度より開始した。第3回より学生も参加し、教員・学生がグループワークを交えて活発な討議・質問が行われている。

今後の計画

- 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会における学生委員の積極的な参加と発言を促していく。
- 学生生活委員会は関係する学生との協議を通じて広く学生の問題及び要望の解決に尽力しているが、今後委員会内への学生の参画も検討していく。
- 2024年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開検討会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、進めていくことを予定している。

改善状況を示す根拠資料

資料2 2023年度医学部医学科教育委員会名簿

資料4 2023年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿

資料48 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

資料49 2022年度試験のあり方WG 議事メモ

資料71 新カリキュラム（2023年度）に関するアンケート（2022年3月実施）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 適切にカリキュラムを実施するための教員の募集と選抜を行っている。

改善のための助言

- ・ 女性教員の比率に十分な配慮を心がけるべきである。
- ・ 教員の教育活動のモニタを充分に行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 教授選考においても、女性教授を増やしていくことについて活発に議論している。
- キャリア教育など生涯教育につながるカリキュラムを拡充することを目指し、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的で開催している
 - 第1回：2022年11月
女性医師としてのキャリアパス、米国での救急医の経験について
 - 第2回：2023年2月
女性研究医としてのキャリアパス、在宅診療医としてのキャリアパスについて
- 名古屋大学医学部附属病院では卒後臨床研修・キャリア形成支援センター内に男女医師キャリア支援相談部門を設け、女性教員も含めた女性医師のキャリア支援を行っている。

今後の計画

- 2023年度は、4名の女性限定教員枠を設け、募集を予定している（2023年7月）。
- 今後も引き続き、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生（女性教員を含む）を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的で開催していく。

改善状況を示す根拠資料

資料30 女性教員（助教）の募集について

資料31 名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク
学生・若手医師向けキャリアセミナー（第1回・第2回）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教員の募集および選考は医学部の理念に基づいて行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「エフォート割合のガイドライン」に基づき、「教員個人評価活動報告書兼自己評価書」により教員を評価している。
- ・ 教育専任教員や病院中央部門の教員の教育や運営へのエフォート率に配慮し、組織全体で職務間のバランスをとっている。

改善のための助言

- ・ 全ての教員がカリキュラム全体への理解を深めるべきである。
- ・ 臨床医学の教員に加えて、全学教育科目・基礎医学・社会医学の教員、および学外実習病院の指導医への能力開発を進めるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部 FD」と称する Faculty Development (FD)を 2021 年度より開

始した。第3回より 学生も参加し、教員・学生がグループワークを交えて活発な討議・質問が行われている。

- ・ 第1回（2022年1月実施）では、「(コロナ禍における今後の教育のあり方を見据えた) 来年度の講義・実習について」「岐阜大学との教育連携について」「IR活動について」「ICT-NUCTの今後・機構ID」「国の動き-共用試験の公的化・コアカリ改訂」をテーマとして開催した。
- ・ 第2回（2022年7月実施）では、「反転授業」「ハラスメント」をテーマとして開催した。ハラスメントに関しては名古屋大学ハラスメント相談センターと連携し、学生向けに相談窓口の案内を周知するとともに、2022年6月に教員向けの研修を実施した。反転授業に関しては、外部講師による講演を行い、グループワークを交えて活発な討議・質問が行われた。
- ・ 第3回（2022年9月実施）では「講義の出席について」をテーマとして開催した。実態の説明や講義の出欠についてのセミナー、初めて学生も参加し活発な討議が行われた。
- ・ 第4回（2023年2月実施）は「試験のあり方」をテーマとして開催した。外部講師による講演を行い 学生・教員との間で積極的な意見交換が行われた。
- 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では2021年度に引き続き2022年度も関連病院で学生・研修医を指導する医師を対象とし、完全オンラインでの指導医講習会を実施した。十分な事前学習と、オンラインならではのグループワークなども盛り込まれた非常に先進的な取り組みとして高く評価されている。
- 教員貢献度実績・自己評価表の教育活動の評価項目にFD参加状況の項目が追加された。

今後の計画

- 「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」を含めた様々なFDの機会を名大医学部教員および学外実習病院指導医に対し今後も実施していく。
- 2020年より名大ネットワーク指導医講習会の開催を年1回オンライン形式で開催し、非同期型と同期型の学習を併用した独自の形式で高い評価を得ている。学外からも多数の講習希望者があり、2023年度より引き続きオンライン形式で、2023年6月と11月の年2回の開催を予定している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料17 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年1月実施）
- 資料18 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年7月実施）
- 資料19 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年9月実施）
- 資料20 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2023年2月実施）
- 資料21 2022年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告
- 資料32 2022年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク総会議事録
- 資料33 2022年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会
- 資料37 2022年度教員貢献度実績・自己評価表

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラムの構成に関連して教員を適切に配置している。

改善のための示唆

- ・ 「PBLチュートリアル」と「基礎的臨床技能実習」の指導体制を充実することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学では新任教員向けFDとPBLチュータートレーニングも兼ねた医学教育改革ワークショップを実施していたが、コロナ禍以後一時中止となっていた。2021年度末からは同チュータートレーニングを再開し、現在オンライン実施となっているPBLチュートリアルを担当する教員の指導体制充実に向けている。2023年度からはより相互性の高いMicrosoft Teamsを活用するなど、ピアラーニングを取り入れた問題基盤型学習の一層の充実を図っていく。

今後の計画

- 現在オンライン実施となっているPBLチュートリアルに関しては、今後もICTの活用によるグループ学習の充実をはかり、より相互性の高いMicrosoft Teamsを活用するなど、ピアラーニングを取り入れた問題基盤型学習の一層の充実を図っていく。また基本的臨床技能実習においては、コロナ禍で利用が促進されたICTを活用しつつ対面での実習も活用し、実習内容の充実を図る。指導教員数の拡充とともに上記のような教育方略の工夫を通じて総合的な指導体制の充実を図っていく。
- 4年次生向けの共用試験臨床実習前OSCEは2023年度より公的化されるため、医療系大学間共用試験実施評価機構の主催する講習会を受講した認定評価者の年間60名以上の設置を予定している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料24 2023年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（学生用）
- 資料25 2023年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（教員用）
- 資料26 2023年度PBLチュートリアルオンライン評価に関する資料料（教員用）
- 資料27 2023年度PBLチュートリアル適切な文献引用について
- 資料66 2023年度共用試験OSCE評価者選出一覧
- 資料67 2022年度共用試験（OSCE）の連携 年間活動報告

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 6年生は医学部図書館に1年間占有できる専用のデスクが用意され、自習用に使用できる。

改善のための助言

- ・ シミュレーション教育・研究・診療支援を担う「メディカルxRセンター」において、学生ごとの施設の利用状況や技能習得状況を把握すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）を開始するなどし、学修教育資源や環境に対する教員と学生からの意見を広く収集し、実際の教育環境の改善に活かしている。実際の改善事例を以下にあげる。
 - ・ 2022年6月 上記アンケートの結果、臨床実習や基礎医学セミナー（研究室配属）の一部で、ハラスメントと疑われかねない行為があることが判明し、カリキュラム評価（IR）委員会からの提言にもとづき、医学部医学科教育委員会・名古屋大学ハラスメント相談センターと合同で、医学部のカリキュラムに関わる全教員を対象としたハラスメント防止研修の実施に至った。また 医学部内では英語を必要とする教員も多いことから英語版のハラスメント防止研修資料も作成した。
- これまでのカリキュラム評価(IR)委員会が実施した主な提言を以下に記す
 - 2022年4月
 - ・ 学生の電子カルテの数
 - ・ 生協及び食堂の設備・環境
 - ・ 図書館の設備・環境
 - ・ 保健管理室の環境
 - ・ サークル・部活動の設備・環境
 - ・ インターネット環境
 - 2022年9月
 - ・ 臨床実習アンケートの周知・臨床実習手帳にも記載
 - ・ NUCTでの講義資料の配布
 - 2023年3月
 - ・ 理念・ディプロマポリシーの定期的な見直し
 - 2023年5月
 - ・ 生協及び食堂の設備・環境
 - ・ 図書館の設備・環境
 - ・ サークル・部活動の設備・環境
 - ・ 試験・カリキュラムについて
 - ・ 講義室の設備・環境
 - ・ 自習室の設備・環境
 - ・ インターネット環境

- また上記の定期的実施するアンケート調査以外にも、「学生・教員を対象とした新カリキュラム2023年度に関する調査」「試験（出題形式・フィードバックなど）についての調査」など教育プログラムの改善に際し、教員や学生から広く意見を求める必要がある際には、積極的に調査を実施している。
- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機構の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、2022年度も学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、教育資源・環境に関しても具体的な連携を検討している。

今後の計画

- 今後も定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。
- 今後、東海国立大学機構として岐阜大学との連携が強化されることを踏まえ、教育面でのインフラの共有や共同設立なども計画していく。評価の共同開発につき2023年度にトライアルを予定している。

改善状況を示す根拠資料

資料38 令和4年度ポストコロナ事業実施報告書

資料34 医学部におけるハラスメント防止研修eラーニング（2022年6月実施）

資料35 名古屋大学ハラスメント相談センターハラスメント講義（2022年7月実施）

資料6 2022年度学生向け学修状況調査（2023年2月実施）

資料7 2022年度教員向け教育状況調査（2023年3月実施）

資料12 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言の資料（2022年2月～2023年6月）

資料21 2021年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告（～2022年7月）

資料22 岐阜大学との授業連携（2022年6月&2023年6月）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「プライマリ・ケア実習」や「臨床実習Ⅱ」で選択できる学外の施設が十分に確保されている。

改善のための助言

- ・ 学生が学内・学外それぞれの臨床実習施設において、実際に経験する症候、疾患分類、患者数を把握し、確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機構の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、2022年度も引き続き学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、教育資源・環境に関しても具体的な連携を検討している。「地域医療教育の連携について」では臨床実習においてお互いの関連病院を実習先として共用することなども検討を開始している。
- 2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を実施し、学生がどのように臨床経験を積んでいるのかについて現状を調査した。
- 2022年度よりカリキュラム評価（IR）委員会では、オンラインで臨床実習アンケートを開始し学生から広く声を収集し、全診療科へフィードバックしている。

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査結果に基づいて、学生の実際に経験する症候、疾患分類、患者数などの臨床経験を蓄積するためのプラットフォームを準備していく。
- 岐阜大学医学部との臨床実習施設も含めた教育資源の共用の具体的な検討を進めていく。
- 共用試験 OSCE については、東海地区の大学で共用できる OSCE センターの構築も視野に入れながら、本学でどのような資料・スペースを確保していくのかについて検討を続ける。
- 今後も定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料21 2021年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告（～2022年7月）

資料22 岐阜大学との授業連携（2022年6月&2023年6月）

資料23 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）

資料24 2022年度臨床実習（学生向け）アンケート

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 患者や地域住民へのアンケートの結果に基づいて、臨床実習施設を評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 2019年度より現在学内での実習においては学生を指導した医師・看護師・学生が診察した患者を対象に、患者満足度評価のアンケートを実施している。新型コロナウイルスの影響で対面での臨床実習を中止していたため、アンケートは一時中断となっていたが、2023年1月より再開し、継続を予定している。今後は学外実習施設にもアンケート対象を拡充することを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料39 2022年度患者満足度アンケート

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全ての学生が学外でも十分な情報サービスを利用可能である。

改善のための助言

- ・ 情報通信技術の活用方法について、それを促し評価する方針を履行すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2023年4月より、東海国立大学機構（岐阜大学と名古屋大学）の両大学の学生、教職員が共同で利用するLearning Management System(LMS)である、TACT(TOKAI Academic Combination Tools)がスタートした。岐阜大学、名古屋大学とも、2023年度開講科目よりTACTを利用できるようになる。
- その新LMSの開始に伴い、2022年2月より新LMSの講習会やオンライン授業の方法などの勉強会などが開催された。
- 名古屋大学と岐阜大学で共通となる東海国立大学機構アカウントの運用が2021年度より開始となり、メールシステムやクラウドシステムなどにおいて両大学共用のサービスの利用が一部可能になった。東海国立大学機構アカウントと紐づけて、学生および教職員はTeams, OneDrive, Exchange等のクラウドサービスに加え、パソコン等にインストールして実行可能なOffice365デスクトップアプリ（Word、Excel、PowerPoint等）が利用可能となった。
- 2021年度から2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を実施し、情報通信技術の活用状況について現状を調査した。

- 現在PBLチュートリアルはオンラインにて実施しているが、PBL実施委員会・学部教育委員会では2022年度より学生評価についてもオンラインに移行した。
- 情報通信機器を利用した文献検索については、EBM教育としてPBLチュートリアル実施時のオリエンテーションにて、Up-to-dateを用いた文献検索に関する説明会を開始している。またPBLチュートリアルでの適切な文献引用に関する資料を作成し学生に配布している。
- 授業アンケートなどについても、従来は紙運用での実施であったが、2021年度からは、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）が開始され、引き続き2022年度もLMSにて実施した。また2023年度からは新LMSであるTACTにて実施している。
- 名古屋大学と岐阜大学は、2022年度に文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」公募に採択され「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育」に取り組んでいる。その中では、オンデマンド教材やバーチャル教育環境などの資源・設備の充実化にも取り組んでいる。

今後の計画

- 卒後臨床研修・キャリア形成支援センターでは、学生向けに電子カルテ使用状況について審議し、教育専任教員により電子カルテ使用マニュアルの作成をすることを検討している。
- 今後も定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料25 2023年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（学生用）
- 資料26 2023年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（教員用）
- 資料27 2023年度PBLチュートリアルオンライン評価に関する資料料（教員用）
- 資料28 2023年度PBLチュートリアル適切な文献引用について
- 資料23 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）
- 資料24 2022年度臨床実習（学生向け）アンケート
- 資料5 2022年度学生向け授業評価調査（2022年4月～2023年3月）
- 資料6 2022年度学生向け学修状況調査（2023年2月実施）
- 資料7 2022年度教員向け教育状況調査（2023年3月実施）
- 資料8 2021年度学修成果達成状況に関する自己評価結果（2023年2月実施）
- 資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月&2023年1月実施）
- 資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）
- 資料11 2023年度新入生アンケート（2023年4月実施）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- Nagoya University Collaboration and course Tools (NUCT) は学内外から利用可能であり、e-learningに活用されている。

改善のための示唆

- 学生向けに電子カルテ使用マニュアルを作成し、その説明会を開催することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部学生が行う研究を支援する組織としての「学生研究会」の活動や基礎医学セミナー等を設定し、多数の学生が研究活動に参加していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 「学生研究会」の医学部組織におけるあり方を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 基礎医学体験実習を実施し、1年次の学生112名全員が参加した。
- 基礎セミナーを実施し、1年次の学生112名全員が参加した。
- 基礎医学セミナー（半年間の基礎医学研究室配属）を実施し、3年次の学生111名全員が参加した。半年間の最後に研究発表会を開催し、29名が口頭発表を、82名がポスター発表を行った。2021年度に基礎医学セミナーを終了した学生111名のうち37名が2022年度も研究を継続した。
- 2022年度は学生研究会ベーシックコースにおいて、メディカルサイエンスカフェ、ラボツアー、研究体験コースを開催し、1年次の学生112名のうち74名が参加した。
- 2022年度は学生研究会アドバンスコースにおいて、各種研究活動に関する情報提供や旅費助成を実施し、研究室に所属し研究活動を行っている学生102名が参加した。
- 名古屋大学医学部を含む4大学連携「基礎研究医養成イニシアチブ」（東京大学、京都大学、大阪大学の各医学部）において、4大学ラボツアーや短期研究研修を開催し、それぞれ17名と1名が参加した。
- 医学部医学科の4～6年次を対象にMD PhDプレプログラムの参加者を募集した。2022年度は3人（4年次3人）が参加した。
- 医学系研究科の大学院博士課程においてMD PhDコースを募集した。大学院説明会において、MD・PhDコースを紹介した。MD PhDコースに入学する大学院生を対象にスカラシッププログラムを提供した。2022年度はMD PhDコースPlan Bに4名が入学した。
- 学生研究会の活動状況は、教授会や医学部医学科教育委員会へ定期的に報告されている。
- 名古屋大学医学部では2021年4月に臨床研究教育学講座を設け、臨床研究人材の育成と各種臨床研究の支援を目指している。2022年度は学部学生への「臨床研究教育」に関し、医学部1年生（メディカルサイエンスカフェ）、4年生（選択特別講義「臨床試験」）、5年生（臨床実習I）、6年生（臨床実習II）を担当し、学生への臨床研究に関するリテラシー向上のための教育にもあたっている。

今後の計画

- ディプロマポリシーに掲げた「新しい医学・医療の開拓」を身につけた人材を育成するために、引き続き医学科専門科目と学生研究会の活動を通じて、医学研究に接する機会を提供し、リサーチマインドを涵養する。
- 学生研究会の組織における位置づけについても今後検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料40 2022年度学生研究会 活動実績
- 資料41 2022年度基礎医学体験実習実施要領
- 資料42 2022年度旅費助成募集要項
- 資料43 2022年度名古屋大学医学部附属病院初期臨床研修プログラム
- 資料44 2022年度基礎医学セミナー実施要項
- 資料45 MD PhDコースについて
- 資料46 2023年度第2年次学士編入学学生募集要項
- 資料47 2022年令和5年度推薦入試医学部の出願資格・要件および選抜方法

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 医学部医学科の学校推薦型選抜において、医学研究者への志向性を持つ人材を募集した。医学部医学科のオープンキャンパスにおいて、学校推薦型選抜や学生研究会を始めとする研究医養成のための取り組みを紹介した。2022年度は学校推薦型選抜にて12名が入学した。
- 医学部医学科の第2年次学士編入学において、生命科学系あるいは理工学系等出身の、多様な経験を有する人材を募集した。2022年度は第2年次学士編入学にて4名が入学した。
- 学生研究会において学会参加等旅費助成を実施した。2022年度は38人が利用した。
- 医学部附属病院において臨床研修プログラム「研究医を目指す人のためのプログラム」を実施した。2022年度は2人（2年目1人、1年目1人）が研修をおこなった。

今後の計画

- 将来の医学・医療を開拓する卓越した研究医を養成するために、全国から研究志向の入学生を募集し、学部生が医学の研究開発に携わることを奨励し、研究医を目指す学部生や卒業生を支援する。これらの取り組みを切れ目なくおこなうことで、研究医志望者が研究に専念できる環境を整備する。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 総合医学教育センターに教育専門家が配置され、カリキュラム開発、教育技法、および評価方法の開発をはじめ、医学教育の改革に貢献している。

改善のための助言

- ・ 総合医学教育センターの活動に基づき、医学部をあげて教育活動を促進すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員のうち、卒前教育にも関わる一部の教員は、総合医学教育センター併任とし、卒前教育に関わる教育専門家の充実を図っている。
- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、具体的な連携を検討している。各テーマに対し、両大学の教育専門家が意見交換や交流を行っている。
- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部 FD」と称する Faculty Development (FD)を2021年度より開始した。第3回より 学生も参加し、教員・学生がグループワークを交えて活発な討議・質問が行われている。
 - ・ 第1回（2022年1月実施）では、「(コロナ禍における今後の教育のあり方を見据えた) 来年度の講義・実習について」「岐阜大学との教育連携について」「IR活動について」「ICT-NUCTの今後・機構ID」「国の動きー共用試験の公的化・コアカリ改訂」をテーマとして開催した。
 - ・ 第2回（2022年7月実施）では、「反転授業」「ハラスメント」をテーマとして開催した。ハラスメントに関しては名古屋大学ハラスメント相談センターと連携し、学生向けに相談窓口の案内を周知するとともに、2022年6月に教員向けの研修を実施した。反転授業に関しては、外部講師による講演を行い、グループワークを交えて活発な討議・質問が行われた。
 - ・ 第3回（2022年9月実施）では「講義の出席について」をテーマとして開催した。実態の説明や講義の出欠についてのセミナー、初めて学生も参加し活発な討議が行われた。
 - ・ 第4回（2023年2月実施）は「試験のあり方」をテーマとして開催した。外部講師による講演を行い 学生・教員との間で積極的な意見交換が行われた。

今後の計画

- 「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」を含めた様々なFDの機会を名大医学部教員および学外実習病院指導医に対し今後も実施していく。
- 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員のうち、卒前教育にも関わる一部の教員は、総合医学教育センター併任とし、卒前教育に関わる教育専門家の充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料17 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年1月実施）

資料18 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年7月実施）

資料19 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年9月実施）

資料20 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2023年2月実施）

資料21 2022年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育に関する研究が活発に行われている。

改善のための示唆

- ・ 学内の教育学部や、東海国立大学機構を構成している岐阜大学医学部との連携交流が望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、具体的な連携を検討している。各テーマに対し、両大学の教育専門家が意見交換や交流を行っている。
実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022年度・2023年度と1年生を対象とした「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業が実施された。
- 学内の教育専門家による研究活動も引き続き活発に行われていて、日本教育学会誌「医学教育」などにも多数論文投稿している。
- 2020年～2021年度に引き続き、2022年度も文部科学省高等教育局医学教育課に技術参与として本学教員を派遣している。

今後の計画

- 指導医にむけた医学教育プログラム（FCME）を学内の教育専門家が中心となり開催しており、教育専門家の育成を行っている。
- 実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022年度からは1年生を対象とした「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業が実施され、2023年も6月に実施予定である。
- 卒後臨床研修・キャリア形成支援センターの副センター長職を新たに設置し、教育専門家の充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料21 2022年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告

資料22 岐阜大学との授業連携（2022年6月&2023年6月）

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎研究や臨床実習で多くの学生を海外に派遣するのみならず、海外からの医学生を多数受け入れていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 国内の教育機関との交流をさらに促進すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学 IR の連携について」「ICT 教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、教育資源・環境に関しても具体的な連携を検討している。「地域医療教育の連携について」では臨床実習においてお互いの関連病院を実習先として共用することなども検討を開始している。
- 基礎医学研究者育成を目的として国内3大学（東京大学、京都大学、大阪大学）の医学部と連携協力を行っている。積極的に連携を推進しており、連携校との交流を活発化させて多様な機会や情報を提供することを目的としている。
- 近隣の教育研究機関と連携して本学の教育研究環境を充実させるため、愛知県がんセンターや生理学研究所などと連携している。
- 臨床実習に関する学外機関との交流については「6.2 臨床実習の資源」に記載。
- 海外との連携について、海外の大学と連携し、その教育研究の発展のため国際交流を活発に行っている。特に、国際的な発展を目指した医学部・医学系研究科共同プログラムGlobal Alliance of Medical Excellence(GAME)やジョイントディグリープログラムを共同運営する3大学（アデレード大学、ルンド大学、フライブルク大学）、また、本学と客員研究員プログラムを運営しているノースカロライナ大学チャペルヒル校を中心に活発に交流を行っている。

今後の計画

- 国内外の連携について、今後も拡大を推し進めるため、関係機関との連携を積極的に進めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料21 2022年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告

資料22 岐阜大学との授業連携（2022年6月&2023年6月）

資料51 東京大学短期研究研修参加者の募集について

- 資料52 2022年度ラボツアー資料
- 資料53 第15回NAGOYAグローバルリトリート開催について
- 資料54 第12回名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム開催
- 資料56 41th解剖トレーニングセミナー
- 資料57 基礎医学研究に関する成果発表等旅費 募集要項

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 国外の教育機関との交流に手厚い支援を提供している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 4大学合同で「基礎医学研究者養成イニシアチブ」として毎月1回、定期的にオンラインでの教員ミーティングを実施した。また、短期研究研修を東京大学で実施し、名古屋大学医学部から1名の学生が参加した。他には、4大学間でのラボツアーを3回（うち1回は名古屋大学）実施し、名古屋大学医学部から17名が参加した。
- 愛知県がんセンターと連携してラボツアーを実施し、本学より1名が参加した。また、研究体験コースを実施し5名が参加した。その他に、第15回NAGOYAグローバルリトリート（2023年2月18日（土）オンライン、2月20日（月）対面（東山キャンパス野依記念学術交流館））を開催し学部生が参加した。
- 名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム（2022年9月10日（土）オンライン）を開催し学部生が参加した。
- 国内の関連機関と連携し、医学科専門科目の講義や実習のために、183名の招へい教員（外部講師）を招へいした。その他に、岐阜大学から、4名の外部講師を招へいした。
- 全国の大学や専門学校などで解剖学教育に携わる教員を対象に、解剖学教育のための「第41回人体解剖トレーニングセミナー」を実施した。
- 教育研究活動に関する交流を促進するために、旅費助成を行った。助成要項を作成し、学生や教員に周知した。学生研究会や医学部医学科教育委員会において審議を行い、旅費助成を実施した。
- オーストラリア・モナシュ大学の協力で、学部生の英語力向上を図るため、合同講義を行った。また、一部学生を選抜してモナシュ大学へ派遣し現地の実習に参加した。同大学では、担当教員による実践的なトレーニングを受けるとともに、グループディスカッションを通じて医療の課題に取り組んだ。
- 米国の医師国家試験を題材に、英語で医学を学ぶ講義を行った。
- 医学部・医学系研究科国際共同プログラム Global Alliance of Medical Excellence (GAME)のネットワークを通じて、合同オンライン医療英語実践プログラムを実施したり、サマープログラムに参加した。その他に上記プログラムの参画大学の一つである高麗大学の国際研究生学生カンファレンスに参加した。
- 海外留学について、海外臨床実習のため13名の学生を選抜し派遣を行った。

今後の計画

- コロナ禍により2020年度以降中止となっていた海外臨床実習による学生派遣を再開した。上記とともに、他の留学プログラムも再開し、各機関との連携を進めるため人的交流を活発に進めている。先方大学の都合等により制限がある場合もある

るが、今後は規模のさらなる拡大を検討している。今後も国内外関係機関の協力を得て、交流の充実を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料51 東京大学短期研究研修参加者の募集について
- 資料52 2022年度ラボツアー資料
- 資料53 第15回NAGOYAグローバルリトリート開催について
- 資料54 第12回 名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム開催
- 資料55 シラバス 医学英語 I
- 資料56 41th解剖トレーニングセミナー
- 資料57 基礎医学研究に関する成果発表等旅費 募集要項
- 資料58 医学英語 I Overview NU-COIL
- 資料59 モナッシュ大学派遣日程表
- 資料60 USMLE LMUクラス
- 資料61 Global Alliance of Medical Excellence (GAME) ウェブサイト
- 資料62 JOCCD2022 final-2
- 資料63 2022 GAMETEIサマースクール
- 資料64 Invitation for Nagoya University(Korea University Research Student Conference)
- 資料65 正式派遣留学学生募集要項

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

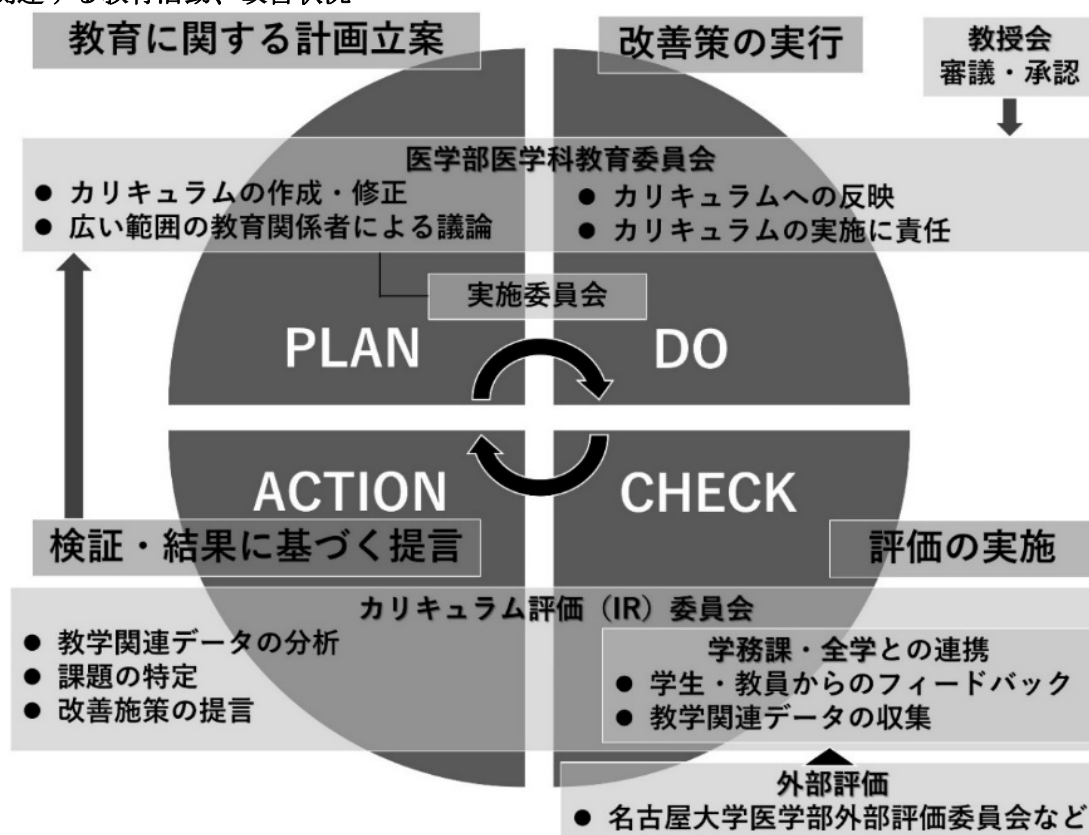
特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラム評価（IR）委員会を2019年度に新たに設置し、各部署が収集した教学データを一元化して集積・分析する体制を整えている。

改善のための助言

- ・ 各教育組織の役割と責任を明確にしたうえで、教育プログラムを適切に評価し、改善・計画・実施する体制を構築すべきである。
- ・ 教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。
- ・ 入学時から卒業後も継続して、長期的に学修成果の達成度を評価する方法を新たに構築すべきである。
- ・ カリキュラム評価（IR）委員会が分析した教育プログラムの評価結果を、カリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善状況



- 本学では上記図のように、カリキュラム評価(IR)委員会が「評価の実施」と「検証・結果に基づく提言」を担当し、医学部医学科教育委員会が「教育に対する計画立案」と「改善策の実行」を担当することで、教育PDCAサイクルを回している。
- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員を別に専任するなど、両者の独立性を高めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より開始していた授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート(学修状況調査)、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート(教育状況調査)に加えて、2022年5月に卒業生進路先アンケート、2022年11月に全卒業生を対象としたアンケートを初めて実施し、今後も継続的に実施する予定である。このような幅広い教育関係者による本学カリキュラムやディプロマポリシー(学修成果)達成状況の評価を実施することで、カリキュラム評価(IR)委員会のプログラム評価活動がより実質的なものとなっている。
- 卒業生自身や卒業生進路先による本学卒業生のディプロマポリシー(学修成果)達成状況の継続的評価が開始されたことから、在学中のみに留まらず卒業後も継続して、長期的に学修成果の達成度を評価する体制が構築された。
- これらの評価の結果、本学卒業生は基礎的な知識の習得・知的好奇心をもち新しいことを吸収しようとする姿勢に強みがある一方で、地域医療への貢献を目指す姿勢・プロフェッショナリズムといった点に関しては学修成果に掲げているにもかかわらずその達成状況が十分ではないことが判明した。これらの結果は医学部医学科教育委員会に提供され、新カリキュラム作成の議論に活用されている。

- これまでのカリキュラム評価(IR)委員会が実施した主な提言を以下に記す。
 - 2022年4月
 - ・ 学生の電子カルテの数
 - ・ 生協及び食堂の設備・環境
 - ・ 図書館の設備・環境
 - ・ 保健管理室の環境
 - ・ サークル・部活動の設備・環境
 - ・ インターネット環境
 - 2022年9月
 - ・ 臨床実習アンケートの周知・臨床実習手帳にも記載
 - ・ NUCTでの講義資料の配布
 - 2023年3月
 - ・ 理念・ディプロマポリシーの定期的な見直し
 - 2023年5月
 - ・ 生協及び食堂の設備・環境
 - ・ 図書館の設備・環境
 - ・ サークル・部活動の設備・環境
 - ・ 試験・カリキュラムについて
 - ・ 講義室の設備・環境
 - ・ 自習室の設備・環境
 - ・ インターネット環境
- カリキュラム評価(IR)委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析を開始している。

今後の計画

- 病院機能を持ち、診療面での評価も求められる医学部においては、独自に5年ごとの外部評価を実施している。学部教育、大学院教育、研究、診療、業務運営の5点について自己点検評価報告書を作成し、外部評価委員(他5大学医学部長/研究科長)から評価を受けている。次回は、2024年1月に開催、報告書は2024年3月発刊を予定している。
- カリキュラム評価(IR)委員会では、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても本学のカリキュラムや卒業生の学修成果達成状況に関する調査を実施し、その結果は医学部医学科教育委員会を始めとした責任ある組織に提供し提言を実施していくことで、教育PDCAサイクルを回し、カリキュラムおよび学修環境の継続的改良を実施していく。
- カリキュラム評価(IR)委員会では、今後入試枠毎の学生の背景や実績に関する分析、国家試験や共用試験の成績に寄与する因子の分析、各専門科目の学士試験の妥当性に関する分析などの教学データの分析を予定しており、教育プログラムの構造、内容、入学試験・学士試験方法などに関する評価を実施していく。
- またJCIなど定期的に受審する外部評価も定期的な問題点の確認と改良のための機会として利用していく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料3 2022年度医学部カリキュラム評価 (IR) 委員会議事録
- 資料4 2022年度医学部カリキュラム評価 (IR) 委員会名簿
- 資料5 2022年度学生向け授業評価調査
- 資料6 2022年度学生向け学修状況調査 (2023年2月実施)
- 資料7 2022年度教員向け教育状況調査 (2023年3月実施)
- 資料8 2022年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2023年2月実施)
- 資料9 2022年度卒業生研修先調査 (2022年6月実施/2023年1月実施)
- 資料10 2022年度卒業生調査 (2022年10月実施)
- 資料12 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言一覧 (2022年2月～2023年3月)
- 資料15 カリキュラム評価 (IR) 委員会で実施した入試枠分析レポート
- 資料16 教学 IRデータに関する取扱いについて
- 資料46 2023年度第2年次学士編入学学生募集要項
- 資料47 2022年令和5年度推薦入試募集要項 p28-29抜粋
- 資料50 令和5年度以降の医学部医学科一般選抜 (前期日程・後期日程) 入試の変更

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点 (特色)

- なし

改善のための示唆

- 定期的かつ包括的に教育プログラムを確実に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点 (特色)

- 新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、医学部医学科教育委員会の学生委員からの主体的な意見が収集され、カリキュラムに反映されている。

改善のための助言

- 教育プログラムに関して、教員と学生から系統的にフィードバックを求め、分析し、教育プログラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員をそれぞれ専任で選定することを決定した。

- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、Learning Management System (LMS)を活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート(学修状況調査)、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート(教育状況調査)を開始するなどし、教育プログラムに対する教員と学生からの意見を広く収集し、実際のカリキュラムや教育環境の改善に活かしている。
- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、全学生および教員が参加可能な公開討論会(2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会)を定期的で開催し、学生や教員の意見を積極的に取り入れながらカリキュラムの改善を図っている。
- 上記調査で学生からあがった要望をもとに、医学部医学科教育委員会では2022年に委員会内の組織として「試験のあり方検討WG」を立ち上げ、学生参加のもと、試験日程に関するルール作りにあたっている。
- 2022年1月以降定期的を開始している東海国立大学機構名古屋大学医学部 Faculty Development (ToMedFD)では、教授職を始めとした多くの教員が参加するとともに、学生も参加可能とし、コロナ禍後の医学教育のあるべき姿や、出席のあり方、試験のあり方に関する学びと改善のための議論の場となっている。

今後の計画

- 引き続き、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート(学修状況調査)、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート(教育状況調査)など、教員と学生からの意見収集を定期的実施していく。
- 今後もカリキュラムの改善に向けた公開討論会やFDの場を設けて、カリキュラム策定の責任ある立場の者が、学生や教員と積極的な意見交換を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料48 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会(2022年5月～7月)

資料49 2022年度試験のあり方WG 議事メモ

資料71 新カリキュラム(2023年度)に関するアンケート(2022年3月実施)

資料17 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD(2022年1月実施)

資料18 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD(2022年7月実施)

資料19 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD(2022年9月実施)

資料20 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD(2023年2月実施)

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生アンケートを実施し、臨床実習カリキュラム開発の参考としている。

改善のための示唆

- ・ 教員と学生からのフィードバックの結果を確実に利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業生に対して教育プログラムに関して試験的なアンケート調査を開始している。

改善のための助言

- ・ 使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を確実に分析すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では、ディプロマポリシーで定める学修成果の内容が達成されているか検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。それに加えて、2022年5月に卒業生進路先アンケート、2022年11月に全卒業生を対象としたアンケートを初めて実施し、今後も継続的に実施する予定である。
- 卒業生自身や卒業生進路先による本学卒業生のディプロマポリシー（学修成果）達成状況の継続的評価が開始されたことから、在学中のみに留まらず卒業後も継続して、長期的に学修成果の達成度を評価する体制が構築された。
- これらの評価の結果、本学卒業生は「基礎的な知識の習得」「知的好奇心をもち新しいことを吸収しようとする姿勢」「情報を収集し活用する能力」といった点に強みがある一方で、「プロフェッショナリズム（豊かな人間性と高い倫理観）」「地域医療への貢献を目指す姿勢」「主体性・積極性」といった点に関しては学修成果に掲げているにもかかわらずその達成状況が十分ではないことが判明した。
- またカリキュラムそのものへの卒業生および卒業生進路先からの意見も収集している。
- これらの結果は医学部医学科教育委員会に提供され、新カリキュラム作成の議論に活用されている。

今後の計画

- 引き続き卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的の実施し、卒業生の学修成果達成状況やキャリアを分析し、本学の教育改善に役立てていく。

改善状況を示す根拠資料

資料5 2022年度学生向け授業評価調査

資料6 2022年度学生向け学修状況調査（2023年2月実施）

資料7 2022年度教員向け教育状況調査（2023年3月実施）

資料8 2022年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2023年2月実施)

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施/2023年1月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生の実績を分析し、責任がある委員会にフィードバックするためにカリキュラム評価（IR）委員会を2019年度に新たに設置している。

改善のための示唆

- ・ 学生の背景と状況について、学生と卒業生の業績を分析することが望まれる。
- ・ 学生の実績を十分に分析したうえで、学生カウンセリングについて責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では、学生の置かれた教育環境を適切に把握し、改善に努めるために、学生に対する学修環境調査を2021年度より開始している。それに加えて、2022年5月に卒業生進路先アンケート、2022年11月に全卒業生を対象としたアンケートを初めて実施した。その中では卒業生の現在の就業状況やキャリアに関する調査も実施している。
- 学生カウンセリングに関しては学生面談記録の作成を2020年度より決定しており、問題がある学生の情報は医学部医学科教育委員会にフィードバックされている。今後も運用を重ねていく。

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生の学修成果達成状況やキャリアを継続して評価していく。
- 教学IRデータ分析により、入試枠ごとの学生の背景と状況、学修成果等の達成状況に関する調査を今後実施していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラム評価（IR）委員会に、全学年から学生代表が委員として選出されている。

改善のための助言

- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の学生を含む構成員は、独立性を担保すべきである。
- ・ 学生委員が継続して主体的に議論に参加すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度以降は医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に参加する学生委員が重複しないように選出することを決定し、全学年から1名～2名が学生委員として参加している。

今後の計画

- カリキュラム評価（IR）委員会に対する学生委員の積極的な参加と発言を促していく。

改善状況を示す根拠資料

資料2 2022年度/2023年度医学部医学科学部教育委員会 名簿

資料4 2022年度/2023年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」から、卒業生の実績に関する情報を得ている。

改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会の調査活動の結果および審議の結果は、医学部医学科教育委員会および医学科会議（教授会）においても報告が行われその内容が共有されている。
- カリキュラム評価(IR)委員会の委員として、新たに名古屋大学教育基盤連携本部高等教育システム開発部門の教員2名が加わり、全学的な方針も踏まえたプログラム評価のあり方について意見交換している。
- 学生に対して毎年度末に実施している学修環境調査や、卒業時アンケート・卒業生アンケート・卒業生進路先アンケートの結果は医学部の全教員に対して資料として提供されており、その結果を踏まえた教育改善に関する意見収集を教育状況調査として毎年度実施している。
- 2022年9月に初めて実施した卒業生アンケートの結果は、学内のみでなく卒業生に対しても同窓会誌および卒業生電子名簿を通じて公開している。
- カリキュラム評価(IR)委員会では、卒業生の実勢に対するフィードバックやカリキュラムに対するフィードバックを求めるため、2022年5月に卒業生進路先医療機関を対象としたアンケート、2022年11月に全卒業生を対象としたアンケートを開始した。
- これらの評価の結果、本学卒業生は「基礎的な知識の習得」「知的好奇心をもち新しいことを吸収しようとする姿勢」「情報を収集し活用する能力」といった点に強みがある一方で、「プロフェッショナリズム（豊かな人間性と高い倫理観）」「地域医療への貢献を目指す姿勢」「主体性・積極性」といった点に関しては学修成果に掲げているにもかかわらずその達成状況が十分ではないことが判明した。
- またカリキュラムそのものへの卒業生および卒業生進路先からの意見も収集している。
- これらの結果は医学部医学科教育委員会に提供され、新カリキュラム作成の議論に活用されている。

今後の計画

- 引き続き各種アンケート調査の定期的な実施により、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを学内・学外の幅広い教育関係者に求めていくとともに、その結果を教員や卒業生などにも適切に公開していく。

改善状況を示す根拠資料

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施/2023年1月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の役割をより明確に規定すべきである。
- ・ 総合医学教育センターの位置づけをより明確に規定すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員を別に専任するなど、両者の独立性を高めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）を開始している。それらに加えて、2022年5月に卒業生進路先アンケート、2022年11月に全卒業生を対象としたアンケートを初めて実施した。この結果、カリキュラム評価(IR)委員会のプログラム評価活動がより実質的なものとなっている。
- また医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価(IR)委員会からの提言を受けて実際の改善の取り組んでおり、実際の改善教育プログラム改善活動を通じて両者の役割分担が明確になってきている。
- これまでのカリキュラム評価(IR)委員会が実施した主な提言を以下に記す。

2022年4月

- ・ 学生の電子カルテの数
- ・ 生協及び食堂の設備・環境
- ・ 図書館の設備・環境
- ・ 保健管理室の環境
- ・ サークル・部活動の設備・環境
- ・ インターネット環境

2022年9月

- ・ 臨床実習アンケートの周知・臨床実習手帳にも記載
- ・ NUCTでの講義資料の配布

2023年3月

- ・ 理念・ディプロマポリシーの定期的な見直し

2023年5月

- ・ 生協及び食堂の設備・環境
- ・ 図書館の設備・環境
- ・ サークル・部活動の設備・環境
- ・ 試験・カリキュラムについて
- ・ 講義室の設備・環境
- ・ 自習室の設備・環境
- ・ インターネット環境

今後の計画

- 引き続き、実質的な活動を通じて、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の担う役割を明確にしていく。
- 卒前卒後教育のシームレス化も踏まえて、卒後臨床研修・キャリア形成支援センター教育専任教員の一部教員が総合医学教育センター兼任になるなど、総合医学教育センターの担う役割がより多様化していくことが想定される。現在は医学科や附属病院とは独立して医学部直属の組織となっているが、その役割や、組織上の位置づけも含めて見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料1 2022年度医学部医学科学部教育委員会 議事録
資料2 2023年度医学部医学科学部教育委員会 名簿
資料3 2022年度医学部カリキュラム評価(IR)委員会議事録
資料4 2023年度医学部カリキュラム評価(IR)委員会名簿
資料5 2022年度学生向け授業評価調査(2022年4月～2023年3月)
資料6 2022年度学生向け学修状況調査(2023年2月実施)
資料7 2022年度教員向け教育状況調査(2023年3月実施)
資料8 2021年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2023年2月実施)
資料9 2022年度卒業生研修先調査(2022年6月&2023年1月実施)
資料10 2022年度卒業生調査(2022年10月実施)
資料11 2023年度新入生アンケート(2023年4月実施)
資料12 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言の資料(2022年2月～2023年6月)

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育活動を担う医学部医学科教育委員会に、広い範囲の教育の関係者の意見を反映することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 医学部医学科教育委員会の外部委員の見直しを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 配分された予算を予算委員会ならびに教授会で透明性を持って配分している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 共用試験公的化などの新たな要請に、予算面および人員面で十分に対応していくため、名古屋大学医学部では2022年度より、東海国立大学機構教育連携推進室を立ち上げて、事務職員および医療専門職（看護師）を配置しており、共用試験OSCEの準備・運営にも関わっている。このモデルについては、学務課の業務負担の増加を防ぎながら、質の高い共用試験を実現し、かつライフイベントで悩む病院看護師のキャリアの選択肢を提供することにもつながっている。
- OSCEの準備・運営にあたっては、2022年からは同じ東海国立大学機構に所属する岐阜大学医学部とお互いのOSCE実施時に人員を出し合うことで、担当者の負担軽減と質の高いOSCEの運営を両立している。

今後の計画

- 共用試験公的化の本格的な導入を踏まえ、予算と人的資源の適切な確保・配分を引き続き実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料67 2022年度共用試験（OSCE）の岐阜大学との連携 年間活動報告

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 予算委員会と教授会が透明性を持って予算を配分している。

改善のための示唆

- ・ 社会の健康上の要請を十分に考慮して資源を配分することが期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 社会の健康上の要請を考慮した資源配分として、2023年度から6年間の予定で文科省の「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」に採択され、東海地方のがん専門医療人材（医師だけでなく、緩和ケア、予防医療に携わる人材も含む）を育成することを予定している。
- 資源配分にあたっては社会の健康上の要請も引き続き考慮していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育活動の増大に対応して、さらに事務組織を充実させるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 東海国立大学機構医学教育連携推進室を設け、事務職員も増員した。

今後の計画

- 事務職員の拡充は昨今の国立大学法人の状況から厳しいが、ICTの活用による業務の効率化や、業務の適切な分配に引き続き努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 国立大学法人評価などの外部評価や名古屋大学内の業務実績に関する現状分析を引き続き継続し、定期的な管理運営の見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域枠学生を含め、愛知県との協働体制が構築されている。

改善のための示唆

- ・ 愛知県、名古屋市など保健医療関連部門とのさらなる協働が期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 地域医療教育学寄付講座による地域枠学生教育などを通じて、愛知県との連携に努めている。

今後の計画

- 引き続き、愛知県・名古屋市との協同に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

9. 継続的改良

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部医学科教育委員会に加えてカリキュラム評価（IR）委員会を設置して、教育を見直し、改善する体制を整えている。

改善のための助言

- ・ 今後も継続して課題を特定して、修正すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）を開始している。それらに加えて、2022年5月に卒業生進路先アンケート、2022年11月に全卒業生を対象としたアンケートを初めて実施した。
- これらのアンケート活動の実施により、カリキュラム評価(IR)委員会のプログラム評価活動がより実質的なものとなっている。実際のカリキュラム評価(IR)委員会からの

主な提言事例を以下にあげる。

2022年4月

- ・ 学生の電子カルテの数
- ・ 生協及び食堂の設備・環境
- ・ 図書館の設備・環境
- ・ 保健管理室の環境
- ・ サークル・部活動の設備・環境
- ・ インターネット環境

2022年9月

- ・ 臨床実習アンケートの周知・臨床実習手帳にも記載
- ・ NUCTでの講義資料の配布

2023年3月

- ・ 理念・ディプロマポリシーの定期的な見直し

2023年5月

- ・ 生協及び食堂の設備・環境
- ・ 図書館の設備・環境
- ・ サークル・部活動の設備・環境
- ・ 試験・カリキュラムについて
- ・ 講義室の設備・環境
- ・ 自習室の設備・環境
- ・ インターネット環境

- カリキュラム評価(IR)委員会では課題の特定のためにも教学データ分析を実施している2022年度には、入試科目とその後の成績データの関連に関する分析を実施し、その結果も利用した上で2022年度に入試科目の見直しが実施された。
- 2021年度より定期的に行っている東海国立大学機構名古屋大学医学部 Faculty Development (ToMedFD) では、カリキュラム評価(IR)委員会の活動の結果特定された課題を踏まえてFDのテーマを決定し、これまでにコロナ禍後の医学教育のあるべき姿や、出席のあり方、試験のあり方について学びや議論の場を提供している。第3回より学生も参加し、教員・学生がグループワークを交えて活発な討議・質問が行われている。
 - ・ 第1回(2022年1月実施)では、「(コロナ禍における今後の教育のあり方を見据えた)来年度の講義・実習について」「岐阜大学との教育連携について」「IR活動について」「ICT-NUCTの今後・機構ID」「国の動きー共用試験の公的化・コアカリ改訂」をテーマとして開催した。
 - ・ 第2回(2022年7月実施)では、「反転授業」「ハラスメント」をテーマとして開催した。ハラスメントに関しては名古屋大学ハラスメント相談センターと連携し、学生向けに相談窓口の案内を周知するとともに、2022年6月に教員向けの研修を実施した。反転授業に関しては、外部講師による講演を行い、グループワークを交えて活発な討議・質問が行われた。
 - ・ 第3回(2022年9月実施)では、「講義の出席について」をテーマとして開催した。実態の説明や講義の出欠についてのセミナー、初めて学生も参加し活発な討議が行われた。
 - ・ 第4回(2023年2月実施)は「試験のあり方」をテーマとして開催した。

外部講師による講演を行い、学生・教員との間で積極的な意見交換が行われた。

今後の計画

- 引き続き教学IRデータ分析や各種アンケート調査の定期的な実施により、カリキュラムおよび学修環境の継続的改良を実施していく。
- またJCIなど定期的に受審する外部評価も定期的な問題点の確認と改良のためのより機会として利用していく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料5 2022年度学生向け授業評価調査
- 資料6 2022年度学生向け学修状況調査（2023年2月実施）
- 資料7 2022年度教員向け教育状況調査（2023年3月実施）
- 資料8 2022年度学修成果達成状況に関する自己評価結果（2023年2月実施）
- 資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施/2023年1月実施）
- 資料10 2022年度卒業生調査（2022年10月実施）
- 資料12 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言一覧（2022年2月～2023年3月）
- 資料15 カリキュラム評価(IR)委員会で実施した入試枠分析レポート
- 資料16 教学 IRデータに関する取扱いについて
- 資料46 2023年度第2年次学士編入学学生募集要項
- 資料47 2022年令和5年度推薦入試募集要項 p28-29抜粋
- 資料50 令和5年度以降の医学部医学科一般選抜（前期日程・後期日程）入試の変更
- 資料17 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年1月実施）
- 資料18 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年7月実施）
- 資料19 第3回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年9月実施）
- 資料20 第4回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2023年2月実施）

質的向上のための水準：評価を実施せず

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 特になし